

「中国の教育事情と異文化体験」

中華人民共和国駐大阪総領事館教育室領事
游 衣明

1 はじめに



游 衣明（ユウ・イミン）です。よろしくお願いいたします。

新見市は初めてですが、電車を降りてまわりの景色を見て驚きました。街はきれいで山は紅葉し、川が流れるきれいなところでした。

私は昨年日本に赴任してきましたが、今日はこの一年間の体験や中国の教育事情をお話しさせていただきます。私は大学（南京農業大学）で仕事をしていたので、大学教育についても触れたいと思います。中国の教育は早いスピードで進んできていますが、まだ日本が進んでいるところもあります。交流を進めていきたいと思えます。

2 中国の現状

現在の中国の状況について話をします。

中国は大国です。何とんでも人口の多さ。13億人あまりで世界一です。面積は世界で三番目で960万平方キロメートル。農村人口の比率が高いのですが、現在農村から大都市に移動しつつあります。出稼ぎのために沿海部の都市に行っているのです。農村には年寄りと子どもが残されつつあります。旧正月（春節）には帰省のために民族大移動がおき、交通渋滞がおきます。春節・メーデー・国慶節の三つが国家の休日になっています。

中国は5000年の古い歴史をもち、ユネスコの世界遺産も30か所あります。

中国語を話す人口は世界の5分の1です。発音は四声があり、難しいのですが特に南の方の方言は難しいですね。自分は安徽省の出身なのですが、上海の大学に出たとき上海語がわかりませんでした。大学では7人に5人が上海出身の学生なので、1、2年たつてやっとわかるようになったくらいです。しかしみなさんは心配しなくても大丈夫です。国家も標準語の普及政策を進め、検定も行っています。幼稚園、小学校の時からこの検定を受けたり、授業も標準語で行っています。やがて中国の方言がなくなってしまうのではないかと少し心配しています。

中国の古典文学や思想は日本にも大きな影響を与えています。孔子・老子などの儒教、道教、また仏教など。唐詩、宋詩、元曲、明・清の小説、三国志などがありますね。

中国の食文化は地方独特の8大料理系があります。油っこいので日本人は食べにくいことがあるでしょうが、中国でも近年健康が重視され、油が少なくなってきました。日本料理は中国でも若い人の間ではやってきています。私の南京の家の周囲にも十何カ所の日本料理屋があり、中国文化の中に入ってきています。

他にもコンピューターや宇宙船など科学技術の進歩にはめざましいものがあります。こ

れからも科学技術の発展には力を入れていくことでしょう。

3 中国の教育

中国の教育事情についてお話しします。改革・開放以来、教育が尊重、重視され、科学と教育の国家による振興が行われています。現代化と国際化に向かって教育改革が進められています。

特に農村部での9年制義務教育の実施に重点が置かれています。教育費は政府負担が増え、個人負担を減らしてきています。農村部では教材費も負担しなくていいようにしています。



中国は全人口の27.5%，3，4億人の学生を抱えています。135万校の学校があり，そのうち大学は1400で在校生は2200万人以上います。2002年の大学進学者数は447.3万人です。

平均教育年数は8年間でまだ日本よりは少ないです。しかし早期教育は進んできており，2歳で幼稚園に入れたりもします。これは両親が仕事で忙しくなったせいでもあります。その後，6～7歳から小学校，12～13歳から中学校，高校が3年間，大学が4年間（医・法は5年間），大学修士課程は一般的に3年間，博士課程も3年間です。

中国では「中学校」の中に中等学校と高等学校が含まれます。小学校～中学校の9年間は義務教育法による義務教育です。2004年の小学校の就学率は98.95%です。その後の進学率は中学校へ94.1%，高等学校へ47.55%，大学へ19%となっています。次に学校数ですが，2004年の統計では次のようになっています。

幼稚園	11.79万園	幼児数	2089.4万人
小学校	39.42万校	児童数	1.12億人
中学校	6.38万校	生徒数	6527.51万人
高等学校	1.6万校	生徒数	2220.37万人

教育規模の大きさがわかっていただけるでしょうか。しかし，中国の経済基盤はまだ弱いので，この教育規模を維持，発展させていくのが大変です。

4 大学教育について

中国で「高等教育」というと大学教育のことを指します。

大学には「大学」（総合大学）と「学院」（単科大学），「高等専科学校」（短大）の3種類があります。またそれらは，国立，省・自治区立，市立，私立のものがあります。おおむね前後期の2学期制（一部で3学期制を試行）で，1学期は9月から，2学期は2月から始まります。週5日制で，先ほどお話しした春節・メーデー・国慶節の3休日に一週間休みます。その他の，地方の祝日などでは休みません。日本の大学は休みが多いですね。学士・碩士（修士）・博士とあり，これは日本と同じです。

留学生は日本からが一番多かったのですが，2000年ごろから韓国が一番になっています。留学生の数も1999年に300大学で164か国4万4千人だったのが，2004年には420大学で178か国11万人を超えています。政府は2007年までに12万人を受け入れる計画を立てていますが，留学生数はますます増えているので，来年にも

達成しそうです。

中国の教育事情は先進国よりまだ遅れていますが、国家も資金を投入する計画を立てており、これからの発展が期待されます。

5 中国の日本語教育

中国での日本語教育は主に大学で行われ、多くの大学で日本語教育の学科を設置しています。私が勤めていた南京農業大学の日本語学部は1996年に設置され（9クラス270人）、大学院も2000年に設置されました。現在あわせて300人以上の学生・院生が日本語を学んでいます。教師は12名で内2人が日本人です。どうして農大に日本語学部があるのかと思われるかもしれませんが。現在中国の単科大学は総合大学へと変わりつつあるのです。



2002年から日本語能力試験を実施しています。毎年3万人が受検しています。日本語教育は早いスピードで発展していますが、日本語教育の教材の開発は遅れています。また大都市や中国東北地方の一部を除いて、大学以外ではほとんど日本語教育は行われていません。さらに現在小中学校で日本語を教えている学校も、その数が減ってきています。大学入試で必要なのは英語だからです。日本語教育を行うのは、大学では増えてきていますが、それ以外では減ってきているのが現状です。

6 進学競争

学習時間の負担は日本の方が少ないですね。中国の小学生の宿題は多い。中学生になるとさらに多くなります。現在高校1年生の私の子どもは、中学生の頃毎日夜11時まで宿題をしていました。授業数もちろん多いです。小学生は毎日8時～12時・14時～17時、中高生は8時から12時、14時～18時までが授業、それが終わって帰宅してからの宿題です。高校に入ってから、毎日夜12時まで宿題をしています。

学校の競争は激しく、学生の能力を高める教育が政府から求められています。各校は進学率を高めるために努力し、学校の評価も進学率で決まります。いい学校はますますよくなり、そうでない学校はますます悪くなります。これは問題になってはいますが、みんないい大学進学を目標にしているので、なかなか難しいです。中国の学校では先生の転勤はほとんどありません。先生も高いレベルの学校にそのまま勤めたいので、異動が少ないのです。

いい大学に入らなければいい仕事に就けません。大学進学率は19%で2000万人。これから国家の教育体制をどうするかが課題です。

今日は中国の教育事情と、私の体験を話させていただきました。ご静聴ありがとうございました。

（文責 阿部泰久）